

このコーナーは、  
営農指導員から、農業のちょっと  
したコツを、お知らせします。

農業振興課農業振興係 ☎0824-73-1131

## 野菜作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲

### 効果的な肥料の与え方

野菜は種類によって養分の吸収の方法が違い、①生育初期に多く吸収するもの②生育期間中にコンスタントに吸収するもの③生育後期に多く吸収するものの3つのグループに分けられます。

養分を吸収する時期によって、基肥の量、追肥の量、回数が変わってきます。

生産安定や品質保持のためには、野菜の特性に応じた的確な施肥管理が必要です。

### 肥料の効かせ方のタイプ

①生育初期に多く吸収するもの  
(先行逃げ切り型)

【主な野菜】ホウレンソウ、小カブ、レタス、サツマイモ、サトイモ※、バレイショ※、コマツナ など

### 【施肥管理のポイント】

・基肥を主体に全層施肥し、後半からは窒素を効かさなくても良い  
※サトイモは20〜30センチ、50〜60センチで土寄せ・施肥する(植え付け時には施肥しない)  
※バレイショは植え付け時に全量施肥(溝施肥)する

②生育期間中にコンスタントに吸収するもの(コンスタント型)

【主な野菜】キュウリ、トマト、ピーマン、ナス、ネギ、セロリ など

### 【施肥管理のポイント】

・基肥には長持ちする緩効性肥料を、追肥は少量ずつ回数を多く、肥切れさせないこと

①と②の中間

【主な野菜】キャベツ、ハクサイ、タマネギ、ナガイモ など

### 【施肥管理のポイント】

・基肥主体、やや長持ちする肥料を、生育中期まで肥切れさせず、後半は控えめに

③生育後期に多く吸収するもの  
(尻上がり型)

【主な野菜】カボチャ、トウガン、スイカ、シロウリ、ダイコン、ゴボウ など

### 【施肥管理のポイント】

・蔓ぼけ防止のため、基肥は控えめにし、中期から後期にかけて、追肥で生育調整

②と③の中間

【主な野菜】アスパラガス、スイートコーン、イチゴ

### 【施肥管理のポイント】

・基肥は控えめにし、追肥は早めで、肥切れさせないこと



## 花作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

### 春の花弁付け準備

#### 1 春植え花卉栽培の特徴

春に植えて初夏から秋にかけて開花・出荷する花卉の種類は、秋植えのものよりも種類が豊富になっています。

今回は比較的丈夫で栽培しやすく、直売所においても販売しやすい花卉を取り上げています。

種苗の種類が決まったら早めに発注するとともに、畑に堆肥を入れるなど栽培の準備をしておきましょう。

#### 2 主な春植え花き栽培のポイント

##### ①アスター

種まきは、ハウスやトンネルで3月下旬から4月にかけて行い、約1カ月後に畑に定植します。その場合、切り花出荷は7月下旬から8月上旬ごろになります。



▲アスター

②カンパニユラ・メデイウム

鐘状の花を6月ごろに多数開花する二年草です。種まきは5月ですが、開花は翌年の6〜7月になります。

栽培期間がとても長いですが、夏に好まれる花卉です。

##### ③小ギク

8月開花の小ギクは、3月下旬から4月上旬に挿し芽をします。

この時期はまだ気温・地温が低いので、ハウスや電熱線などを活用しての育苗が適しています。

##### ④グラジオラス

普通栽培では4月から5月にかけて露地に順次植え付け、7〜8月に開花します。

茎が倒れて曲がりやすいので、必ずフラワーネットを使います。

##### ⑤ヒマワリ

種まきから開花までの期間が短いものも多く、最短では45日で開花するような品種もあります。

寒い時期に開花させることも可能ですが、早期開花は避けて、無理に6月頃からの開花を狙います。

##### ⑥ペニバナ

基本的に年中栽培できますが、高温期は花が貧弱な姿になるため、高温長日を避けた、4月の種まきで7月上旬までに開花させる栽培が無難です。